

始良市加治木複合新庁舎 建設基本設計図書【概要版】



パブリックコメント

令和3年10月15日（金）から11月14日（日）まで

始良市加治木複合新庁舎 建設基本設計図書【概要版】

1. 設計の基本方針

新庁舎は、頻発する自然災害への備えから、地域防災拠点として行政機能を維持できる災害に強い庁舎として計画します。また、様々な地域活動や交流の拠点として周辺の公共施設を複合化し、多様な市民サービスに応える機能を備えた市民に親しまれる庁舎として計画します。

基本設計では、始良市複合新庁舎建設基本構想・基本計画（平成30年8月策定）に掲げる『複合新庁舎建設の基本的な考え方』及び始良市加治木総合支所庁舎建設基本計画（令和2年8月）の『基本方針』を具現化するものとします。なお、この基本設計図書（案）には検討段階の内容も含まれており、今後変更される場合がありますので、予めご了承ください。

① 地域防災拠点としての施設

- 災害応急活動及び一時避難場所として、防災資機材や食料、飲料水、生活支援物資を備蓄する倉庫を計画します。
- 避難時受け入れ施設として、災害時の市民の安全性をサポートする施設とします。
- 広場を整備し施設と一体的な防災広場として利用できる計画とします。
- 非常時の発電設備等は2階に配置し、浸水時に機能確保を図ります。
- 大地震後も地域防災拠点としての機能を損なわない十分な耐震性能を有する安全性の高い施設とします。
- 豪雨対策として床高を高く設定することで施設の浸水を防ぎます。また、広場に雨水を一時貯留することで周辺地域の被害を軽減する計画とします。

② 市民に親しまれ、まちづくりの拠点となる施設

- みどりの空間・広場に隣接して施設を配置し、公園のように気軽に訪れたいくなる施設とします。
- すべての利用者が自由に利用でき、建物の中心（核）となるエントランスホール（『郷中ホール』）を整備し、情報発信拠点として多くの市民が情報に触れる空間として計画します。
- 『郷中ホール』は複合化するすべての機能に接続する核となり、各施設の利用者間に自然発生的な交流の場となる計画とします。
- 多目的室に付属してキッチン設備を設け、食を通じた様々な交流や活動を支援します。
- 図書館を東側道路に近い位置に配置し、気軽に立ち寄れる学びの環境を整備します。

③ ユニバーサルデザインを取り入れた、ひとにやさしい施設

- 誰もが使いやすいシンプルな配置・動線計画とします。
- 床の段差を設けず、安全で使いやすい施設とします。
- バリアフリートイレ、授乳室を設け、すべての市民が利用しやすい計画とします。

④ 環境にやさしく、経済的な施設

- 自然エネルギーを活用し、環境負荷の低減に配慮した計画とします。
- 西側に多目的ホールを配置することで、その他施設への西日を遮り、熱負荷を軽減します。
- 建物を軽量化することで基礎にかかる費用を削減し、軽くて強い庁舎とします。

⑤ 市民サービスの向上を実現する施設

- 多くの市民が利用する行政窓口を1階に集約し、利用者の動線を短縮する計画とします。
- 駐車場及び車寄せを行政窓口に近接させ、スムーズな利用者動線とします。
- すべての機能が『郷中ホール』で繋がり、相互に交わることで多世代間交流を促進。また、ホールに総合の受付管理を設け、利用者への案内等でより迷いなく利用できる施設とします。

⑥ 機能性・効率性の高い施設

- 明快な管理区分で休日や夜間等の施設使用に対応可能な計画とします。
- 施設の複合化により、共用部を施設中央付近に集約し、共有することでスペースと設備を最大限利用する計画とします。

2. 配置計画

新庁舎は現在の加治木総合支所敷地北側のグラウンドに建設します。工期は点線で区分しているとおり庁舎群と広場エリアの2つに大きく分け、新庁舎の完成後、現庁舎及び体育館を解体・撤去し「かじのき広場」等を整備します。

新庁舎は新しく整備する「かじのき広場」とつながり、一体的に利用できるように配置し、エントランスホール（郷中ホール）を中心にすべての施設にアクセスする計画としています。



■ 動線計画

- ① **正面玄関**：主要アクセス道路である市道 塩入・春日線からの動線に配慮し、歩道のほか、車寄せやバス停を配置します。
- ② **広場側玄関**：広場と一体的に利用できるように、南側に玄関を計画します。

■ 駐車場・駐輪場計画

- ③ **駐車場**：東側道路からの車両アクセスをメインとし、必要に応じて北側・西側道路からの出入りも可能とします。駐車場は施設を取り囲むように配置し、利用目的に応じて駐車できる計画としています。
- ④ **身障者等用駐車場**：正面玄関前に屋根を配置し、障がいのある方や高齢の方、妊産婦の方などが安心して利用できる計画とします。
- ⑤ **駐輪場**：広場側玄関の屋根下に適正台数を配置します。

■ オープンスペース計画

- ⑥ **かじのき広場**：グラウンドゴルフやジョギングコースを整備するなど、市民の健康増進活動を支援する計画とします。
- ⑦ **かじのきの丘**：通りの終点となるメインアクセスの位置に象徴的な緑豊かな丘を配置します。丘や隣接する図書館に木陰空間をつくりだします。
- ⑧ **郷中ホール**：各施設の中心に配置することで、どこに何があるか直感的にわかるエントランスホールとします。様々な目的で訪れた市民のコミュニケーションを誘発させ、この施設を象徴する空間として計画します。

■ 既存施設のあり方

- ⑨ **消防団施設**：別棟で計画し、消防車の機動性や利用者の安全性に配慮した配置とします。
- ⑩ **現保健センター・現書類倉庫**：今後の利活用（存置・撤去）について検討します。

3. 一階平面計画



■ 郷中ホール

- ① すべての利用者が経路することで、世代を超えた交流を誘発させる計画とします。
- ② すべての施設とつながるホールとして、大きな吹き抜けを有した象徴的な空間とします。

■ 多目的ホール

- 建物に影を落とさないように西側に配置し、ステージは可動式のものを採用することで、様々なイベントに対応可能です。
- ③ かじのき広場とつながる縁側空間（出入口・休憩スペース）を設置します。
 - ④ 多目的ホールで利用する備品などを十分に収納できるスペースを確保します。
 - ⑤ 郷中ホール、駐車場からそれぞれアプローチできる動線を確保します。郷中ホールと一体的に利用できる計画とします。

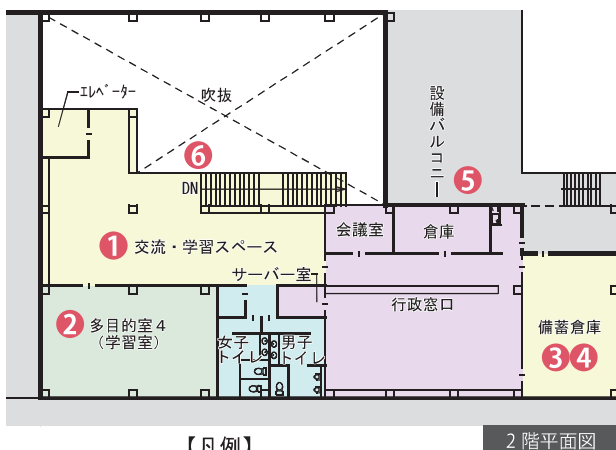
■ 多目的室

- ⑥ 可動間仕切りを設置し、利用目的に応じた広さが確保できる計画とします。また、郷中ホールとの一体的利用も可能です。
- ⑦ 多目的室1（調理室）は食を通じた様々な交流のほか災害時の炊き出しなどにも利用できる計画とします。
- ⑧ 多目的室2・3側の駐車場は検診車が駐車できる計画とし、多目的室と一体的に検診ができる計画とします。

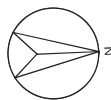
■ 行政窓口

- ⑨ 市民がわかりやすく、アクセスしやすい東側に道路に面して配置します。
- ⑩ 屋根付きの身障者等用駐車場からアクセスしやすい位置に出入口を計画します。
- ⑪ 相談室を設置し、市民の相談に応じたきめ細かなサービスを実現します。
- ⑫ 市民利用の多い窓口機能を1階に集約し、市民サービスの向上を図ります。

3. 二階平面計画



【凡例】



- 出入口ドア
- ⌞ 下部吹抜け
- 軒先ライン

2階平面図

■ 交流・学習スペース、学習室

- ① 郷中ホールの吹抜けに面した空間でコミュニケーションを取りながら学習できる共用空間とします。
- ② かじのきの丘や広場、桜島といった自然を眺めながら、誰もが静かな環境で学習に集中できる場を整備します。

■ 備蓄倉庫ほか

- ③ 浸水被害を想定し、2階に配置します。
- ④ 72時間避難者を支援する物資を保管します。
- ⑤ 浸水対策として、発電設備などの設備機器を2階設備バルコニーに配置します。
- ⑥ 郷中ホールのわかりやすい位置にエレベーター、階段を配置します。

4. 立面計画



東側立面図

わかりやすい外観

目的の施設がどこにあるか、直感的にわかる立面計画を目指します。またガラス窓を多用することで、施設内の活動が外からもわかり、賑わいを感じることができる施設を計画します。

加治木の風景と調和する施設

周辺の住宅地から距離をとり、周辺への日影などの影響を最小限に抑え、多目的ホールなどの大きな建物が違和感なく加治木の風景に溶け込むように配慮します。

メンテナンスが容易な計画

ガラス面は清掃可能な位置に設け、維持管理が容易に行えるよう配慮します。また、外装材も維持管理費のかかりにくい材料を選定します。

5. ユニバーサルデザイン・サイン計画

すべての人が利用しやすく、わかりやすい庁舎とします。

- ① アクセスしやすい構内通路
- ② 車いす利用者、つえ利用者などの安全対策
- ③ 視覚障がい者の安全対策
- ④ 聴覚障がい者の安全対策
- ⑤ 誰もが利用しやすく、わかりやすいサイン



段差のない建具



バリアフリースイートイレ



大きめのサイン

6. 構造計画

大地震後も災害対策の指揮・情報伝達等の防災拠点機能を維持し、業務継続できる計画とします。

構造概要

構造形式	耐震構造
規模	地上2階
構造種別	鉄骨造 (主構造)
架構形式	ラーメン構造
耐震性能	構造体・I類、建築非構造部材・A類、建築設備・甲類 (庁舎)